

21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター 2012年度の活動

1. 講演会

- 1) 日時：2012年7月6日（金）15:00～17:00
場所：東洋大学白山校舎5号館5201教室
講師：Noraini M. Noor Ph.D (International Islamic University Malaysia)
テーマ：「Work, family, and women's well-being」
司会：堀毛一也（東洋大学社会学部）
- 2) 日時：2012年7月7日（土）15:00～17:30
場所：東洋大学白山校舎6号館2階6218教室
講師：Noraini M. Noor Ph.D (International Islamic University Malaysia)
テーマ：「Islam and psychology」
司会：堀毛一也（東洋大学社会学部）
- 3) 日時：2013年1月25日（金）15:00～17:30
場所：東洋大学白山校舎2号館16階スカイホール
講師：John W. Gastil Ph.D (Pennsylvania State University)
テーマ：「Social and psychological change through democratic deliberation:
How jury deliberation transforms private individuals into democratic citizens」
司会：黒沢 香（東洋大学社会学部）

2. 共同セミナー

- 1) 第3回東洋大学HIRC21&翰林大学応用心理研究所共同セミナー
日時：2012年12月15日（土）13:00～18:00
場所：東洋大学白山校舎6号館3階6302教室

3. 研究交流会（研究会）

島崎プロジェクト

- 1) 日時：2012年5月17日（木）11:00～
場所：明海大学
議題：2011年度の研究経過報告と2012年度の研究計画
- 2) 日時：2012年6月13日（水）16:30～
場所：明海大学
議題：研究の進捗状況報告と課題
- 3) 日時：2012年9月3日（月）13:00～
場所：東洋大学白山校舎
議題：研究の進捗状況報告と打ち合わせ

- 4) 日時：2012年12月1日(土) 17:30～
 場所：東洋大学白山校舎
 議題：研究の進捗状況報告と集計・分析の打ち合わせ
- 5) 日時：2013年1月28日(月) 13:00～
 場所：東洋大学白山校舎
 議題：集計・分析の打ち合わせ

4. 学会活動

相羽美幸(筑波大学)・太刀川弘和(筑波大学)・松井豊(筑波大学)・福岡欣治(川崎医療福祉大学) 地域住民における自殺念慮とソーシャル・サポートの互恵性 日本心理学会第76回大会(専修大学) 2012年9月11日

相羽美幸(筑波大学)・太刀川弘和(筑波大学)・遠藤剛(筑波大学)・松井豊(筑波大学)・福岡欣治(川崎医療福祉大学)・土井永史(川崎医療福祉大学)・朝田隆(茨城県立こころの医療センター) ソーシャル・サポートが心理的ストレス過程および自殺危険度に及ぼす影響—笠間市民こころの健康調査から— 第36回日本自殺予防学会総会(ベルサール新宿グランドホール) 2011年9月14日

榎宏朗(新潟医療福祉大学大学院)・横山由香里(岩手医科大学)・内山由美子(上智大学)・吉川健明(健和会 臨床・社会薬学研究所)・片平洸彦(健和会 臨床・社会薬学研究所/新潟医療福祉大学大学院) 「カルテがない」C型肝炎感染被害者調査からの考察 第3報 ソーシャルワークにおけるエンパワーメント・アプローチ論 第53回日本社会医学学会総会(関西大学) 2012年7月15日

榎宏朗(新潟医療福祉大学大学院)・片平洸彦(新潟医療福祉大学大学院)・中村雅人(ヒューマンネットワーク中村総合法律事務所) イレッサ訴訟高裁判決(東京=2011年、大阪=2012年)の不当性 日本社会薬学会第31年会(鈴鹿医療科学大学) 2012年9月16日

福岡欣治(川崎医療福祉大学) 日常ストレス経験に伴う親友との肯定的および否定的相互作用と精神的健康—ペア・データを含めた検討— 日本感情心理学会第20回大会(神戸大学) 2012年5月26日

福岡欣治(川崎医療福祉大学)・井上果子(横浜国立大学)・畑中美穂(名城大学)・安藤清志(東洋大学)・松井豊(筑波大学) 東日本大震災とジャーナリストの惨事ストレス(1)被災地内新聞社を対象とした予備的面接調査 日本トラウマティック・ストレス学会第11回大会(クローバープラザ) 2012年6月9日

福岡欣治(川崎医療福祉大学) 出産後の夫婦におけるサポート、愛情、抑うつとの相互関係—産後1ヶ月時点での夫婦に対する調査から— 日本健康心理学会第25回大会(東京家政大学) 2012年9月1日

福岡欣治(川崎医療福祉大学)・高橋尚也(立正大学)・松井豊(筑波大学)・安藤清志(東洋大学)・井上果子(横浜国立大学)・畑中美穂(名城大学) 東日本大震災とジャーナリストの惨事ストレス(3)—被災地内新聞社への質問紙調査からみた取材・報道活動と心身の自覚症状— 日本心理学会第76回大会(専修大学) 2012年9月11日

Fukuoka, Y.(Kawasaki University of Medical Welfare), Takahashi, N.(Rissho University), Matsui, Y.(University of Tsukuba), Ando, K.(Toyo University) Inoue, K.(Yokoham National university), Hatanaka, M.(Meijyo University) The Tohoku Earthquake and Critical Incident Stress of Journalists (2): Questionnaire Survey With Newspaper Companies in the Disaster Area. Paper presented at the 28th annual meeting of the International Society for Traumatic Stress Studies, Los Angeles, November 2, 2012.

福岡欣治（川崎医療福祉大学） 日常ストレス経験に伴う親友からの肯定的および否定的相互作用と精神的健康 —ペア・データを含めた検討（2）— 中国四国心理学会第 68 回大会(福山大学宮地茂記念館) 2012 年 11 月 11 日

福岡欣治（川崎医療福祉大学）・高橋尚也（立正大学）・松井豊（筑波大学）・安藤清志（東洋大学）・畑中美穂（名城大学）・井上果子（横浜国立大学） 東日本大震災とジャーナリストの惨事ストレス（4）—全国紙新聞社・通信社への質問紙調査からみた取材・報道活動と心身の自覚症状— 日本社会心理学会（つくば国際会議場） 2012 年 11 月 18 日

福岡欣治（川崎医療福祉大学） 女子大学生における食行動のセルフコントロール—ソーシャル・サポートとの関連を含めて— 岡山心理学会第 60 回大会（岡山理科大学） 2012 年 12 月 15 日

Horike,K. (Toyo University) A preliminarily study for the individual differences in sustainable mind and behavior. European Congress on Psychology. Univ. of Trieste, Italy, 2012.7

堀毛一也（東洋大学） サスティナブルな心性・行動と主観的well-beingの関連—東日本大震災前後の比較— 日本社会心理学会第53回大会（筑波大学） 2012年11月17日

片平冽彦（健和会 臨床・社会薬学研究所／新潟医療福祉大学大学院） イレッサ薬害事件における被告国と企業の責任. イレッサ薬害西日本訴訟結審前集会（エルおおさか） 2012 年 1 月 26 日

片平冽彦（健和会 臨床・社会薬学研究所／新潟医療福祉大学大学院）・横山由香里（岩手医科大学）・榎宏朗（新潟医療福祉大学大学院）・内山由美子（上智大学）・吉川健明（健和会 臨床・社会薬学研究所）。「カルテがない」C型肝炎感染被害者調査からの考察 第 2 報 「カルテがない」薬害肝炎被害者の認定問題. 第 53 回日本社会医学会総会（関西大学） 2012 年 7 月 15 日

片平冽彦（新潟医療福祉大学大学院）・榎宏朗（新潟医療福祉大学大学院）・寺岡章雄（医薬情報センターあさひ）・小池盛明（けやき薬局）・宮地典子（（株）エイトライフ） 副作用報告における担当医と企業の因果関係判定の相違度（第 4 報）イレッサ承認前の副作用報告 21 例の場合. 日本社会薬学会第 31 年会（鈴鹿医療科学大学） 2012 年 9 月 16 日

片平冽彦（新潟医療福祉大学大学院／健和会 臨床・社会薬学研究所） 薬害スモンの教訓. スモン・公害センター設立 30 周年記念のつどい（東京） 2012 年 10 月 28 日

片平冽彦（新潟医療福祉大学大学院／健和会 臨床・社会薬学研究所）. 薬害を容認するイレッサ訴訟高裁判決の不当性. 新医協第 65 回総会 全国研究集会 薬学関連領域分科会（東京芸術劇場） 2012 年 11 月 4 日

水田恵三（尚絅学院大学）・清水 裕（昭和女子大学）・西道 実（奈良大学）・田中優（大妻女子大学）・元吉忠寛（関西大学）・松井 豊（筑波大学）・堀 洋元（大妻女子大学）・福岡欣治（川崎医療福祉大学）・竹中一平（武庫川女子大学） 避難所運営システム（STEP）の効果測定（2）—被災地の大学生を対象とした検討— 日本グループ・ダイナミクス学会第 59 回大会（京都大学） 2012 年 9 月 23 日

清水 裕（昭和女子大学）首都圏大学生の防災意識と防災行動—東北地方太平洋沖地震発生前後での変化の検討—日本グループ・ダイナミクス学会第59回大会（京都大学） 2012年9月22日

高橋尚也（立正大学）・福岡欣治（川崎医療福祉大学）・松井 豊（筑波大学）・張 綺（筑波大学）・李 双龍（復旦大学） 中国におけるジャーナリストの外傷後ストレスの実態 日本トラウマティック・ストレス学会第 11 回大会（クローバープラザ） 2012 年 6 月 9 日

Takahashi, N. (Rissho University), Fukuoka, Y. (Kawasaki University of Medical Welfare), Ando, K. (Toyo University), Matsui, Y. (University of Tsukuba), Inoue, K. (Yokohama National University), & Hatanaka, M. (Meijyo University) Critical incident stress of journalists that covered The Tohoku Earthquake: Report of intervention and survey results by Journalists' CIS Research Group. Paper presented the 2012 Annual Convention of Korean Psychological Association, Chuncheon, Korea, August 24, 2012.

Takahashi, N. (Rissho University), Fukuoka, Y. (Kawasaki University of Medical Welfare), Matsui, Y. (University of Tsukuba), Cho, K. (University of Tsukuba), Li, S. (Fudan University) Characteristics of Traumatic Stress in Chinese Journalist. Paper presented at the 28th annual meeting of the International Society for Traumatic Stress Studies, Los Angeles, November 2, 2012.

谷口尚子 (東京工業大学) 投票参加のシレンマに関する実験研究. 公共選択学会第16回全国大会 2012年7月

谷口尚子 (東京工業大学) ・大島尚 (東洋大学) 大学の地震防災対策と大学生の地震防災意識・行動の計量分析. 日本行動計量学会第40回大会 2012年9月

横山由香里 (岩手医科大学) ・榎宏朗 (新潟医療福祉大学大学院) ・内山由美子 (上智大学) ・吉川健明 (健和会 臨床・社会薬学研究所) ・片平冽彦 (健和会 臨床・社会薬学研究所/新潟医療福祉大学大学院) 「カルテがない」C型肝炎感染被害者調査からの考察 第1報 C型肝炎感染被害者の医療と生活の実態. 第53回日本社会医学会総会 (関西大学) 2012年7月15日

5. 論文

榎宏朗・片平冽彦・中村雅人 (2012). イレッサ訴訟高裁判決 (東京=2011年、大阪=2012年) の不当性. 社会薬学, 31(2), 66-67.

福岡欣治 (2012). 日常ストレス経験に伴う特定の親友との相互作用と心理的健康—過去1ヶ月間の経験に関する検討— 川崎医療福祉学会誌, 22, 53-59.

福岡欣治・高橋尚也・井上果子・畑中美穂 (2013). ジャーナリストの惨事ストレス対策—東日本大震災を報道したジャーナリストの支援— 産業精神保健, 21, 18-23.

片平冽彦 (2012). 薬害事件における加害・被害関係と社会 イレッサ薬害事件の場合 第2報 イレッサ薬害訴訟における国の責任—初期の情報と対応について 東洋大学 21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター 研究年報, 9, 31-40.

片平冽彦 (2012). 難病そして薬害の「原点」スモン 診療研究, 476, 32-42.

片平冽彦 (2012). イレッサ薬害事件における被告国と企業の責任 診療研究, 479, 66-74.

片平冽彦, 小池盛明, 宮地典子 (2012). イレッサ薬害事件における国・企業・関係医師・学会等の責任 社会薬学, 30(2), 50-52.

片平冽彦 (2012). 薬害を容認するイレッサ訴訟高裁判決の不当性. 日本の科学者, 47(10), 52-57.

片平冽彦・榎宏朗・寺岡章雄・小池盛明・宮地典子 (2012). 副作用報告における担当医と企業の因果関係判定の相違度 (第4報) イレッサ承認前の副作用報告21例の場合 社会薬学, 31(2), 64-65.

片平冽彦 (2012). 薬害事件における加害・被害関係と社会 イレッサ薬害事件の場合 第2報 イレッサ薬害訴訟における国の責任—初期の情報と対応について 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 9, 31-40.

久保ゆかり (2012). 二分法的な理解と柔軟な理解—他者理解の発達— 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 9, 79-82.

細井洋子 (2012). 犯罪被害者の苦悩と怒り 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 9, 41-78.

堀毛一也 (2012). サステナブルな心性と行動の関連に関する予備的検討—sustainable well-being への心理学的アプローチ— 東洋大学・エコフィロソフィ研究, 6, 57-72.

堀毛一也 (2013). 持続可能な幸福への心理学的アプローチ—季刊・環境研究, 169, 35-43.

小口孝司・竹田葉留美・落合勉 (2012). 高齢者の自伝的記憶の機能とメンタルヘルスとの関連について 東洋大学21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 9, 25-30.

大島 尚・谷口尚子 (2012). 大学と大学生の地震防災対策—東日本大震災を挟んだ調査から— 東洋大学21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 9, 83-99.

島崎哲彦・大谷奈緒子・小川祐喜子・伊達康博・柳瀬公・福田朋実・赤尾光史・四方由美・川上孝之 (2012). 犯罪報道における被疑者および被害者の実名とプライバシーの取り扱い—明治期から現代までの変遷と問題点に関する実証的研究— 東洋大学21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 9, 3-16.

清水 裕 (2012). 首都圏大学生の防災意識と防災行動 —東北地方太平洋沖地震発生前後での変化の検討— 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 9, 17-24.

6. 著書

片平冽彦 (2012). 薬害 現代社会学事典 弘文堂 pp.1269-1270.

堀毛一也 (2013). ポジティブ心理学の発展—パーソナリティ領域を中心に— 日本パーソナリティ心理学会 (企画) 二宮克美・浮谷秀一・堀毛一也・安藤寿康・藤田主一・小塩真司・渡邊芳之 (編) パーソナリティ心理学ハンドブック 福村出版 pp.508-514

7. その他

福岡欣治 東日本大震災とジャーナリストの惨事ストレス～調査結果の速報を中心に～ 新聞労連「労安学校」 (文京区民会館) 2012 年 4 月 28 日

福岡欣治 東日本大震災とジャーナリストの惨事ストレス～被災地新聞社調査の報告～ 新聞労連第 120 回定期大会 (文京区民会館) 2012 年 7 月 19 日

福岡欣治 (2012). 東日本大震災の取材報道経験に関する調査 新聞労連, 2013 年 9 月 1 日号(第 1201 号), 2 面.

福岡欣治 東日本大震災とジャーナリストの惨事ストレス～被災地新聞社調査をふまえて～ 新聞労連東北地連「産研集会」（山形グランドホテル） 2013年2月2日

堀毛一也 2013 個人のウェル・ビーイングを職域でいかにのばすか 産業精神保健研究, 4, pp.18-22. (インタビュー記事)

Naoko Taniguchi. The Reform of Electoral System and the Realignment of Party System in Japan, International Symposium on Designing Governance for Civil Society, Feb. 2012.

Naoko Taniguchi. Analyzing Election Manifestoes of Japanese Parties: In the MRG/CMP Coding Scheme, International Academic Conference on Civil Society with SNU and Keio University, Jan. 2013.

※プロジェクトに参加するメンバーは以下の通りである。

〔研究員〕

安藤清志（東洋大学社会学部教授）〔統括責任者〕
大島尚（東洋大学社会学部教授）
島崎哲彦（東洋大学社会学部教授）
黒澤香（東洋大学社会学部教授）
久保ゆかり（東洋大学社会学部教授）
細井洋子（東洋大学社会学部教授）
原山哲（東洋大学社会学部教授）
加藤司（東洋大学社会学部准教授）
関谷直也（東洋大学社会学部准教授）

〔客員研究員〕

松井豊（筑波大学教授）
小口孝司（立教大学教授）
片平洌彦（新潟医療福祉大学大学院教授）
福岡欣治（川崎医療福祉大学准教授）
清水裕（昭和女子大学准教授）
谷口尚子（東京工業大学准教授）

〔研究支援者〕

市村美帆（東洋大学）
下田俊介（東洋大学）

〔リサーチ・アシスタント〕

柳瀬公（東洋大学大学院社会学研究科）
清田尚行（東洋大学大学院社会学研究科）